

# 『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。  
スパークスの日本株の情報発信レポート

第4号(2008年11月12日)



## 「アナリストの一日」

私はスパークスの日本株を調査しているアナリストです。日本の企業の実態を探り、その企業が成長するのか否か、株価が割安なのかどうか、を判断しています。今回はアナリストである私の一日を紹介したいと思います。

まず朝は5:30に目覚めます。そして寝ぼけ眼の中、前日の米国市場をテレビで確認しつつ、日経新聞朝刊をコーヒーを飲みながらチェックします。今日の一面はある政治関係の記事。まずは、ほっと一息。なぜかと言うと、今朝の政治関係の記事は株式市場へのインパクトが比較的小さいと思われる内容だったからです。そして注目の財務面まで移ってくると自然と緊張感が高まります。なぜなら決算シーズン直前になると、開くのが恐ろしいページなのです。

例えば、『**自動車会社、軒並み大幅減益**』と書かれていたりします。

調査している立場からすると減益は既に織り込み済みであっても、市場はそのネガティブな情報に必要以上に敏感に反応する時があるからです。



そして7:30、大崎にある会社に着。  
まずはメールをチェック。  
今日はいくつかの証券会社が、昨日の決算発表を受けて、業績下方修正をした機械メーカーのレーティングを引き下げたようです。念のため、すぐにファンドマネジャーに報告。ほとんど既に認知している場合が多いですが、こうしたコミュニケーションこそが重要で、そこからお互いのアイデアや調査活動の状況などを活発に情報交換します。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



そろそろ取材に行く時間。

今日は、ある金属メーカー(A社)に訪問して、先方の広報担当者から会社の状況を伺いました。

A社は高級金属の製造を得意とする企業で、ニッチ分野への集中と積極的な企業買収により、業界でも相対的に良いポジションにあります。ただし、需要が急減速している自動車産業が顧客となっている割合が高いため、このところ株価が大きく下落しています。

今回の訪問で、A社から引き続き強気のコメントが聞ければ、今回の株価下落は良い企業を安く買うチャンスですが、実際どうなのかを確認するのが今回の訪問の目的です。結果、やはり9月以降需要が大きく減退している様子が窺えました。A社の場合、経費コントロールが行き届いているため、仮に売上計画を下回っても今期の利益はほぼ計画に近い数値になると考えています。ただし来期になると需要減退が大きく影響してきますし、投資判断という観点からすると、株価水準が高いということも気がかりです。

9月中旬以降の株価暴落により、他のいわゆる『優良企業』の株価も低迷しています。それにより、PBR、PERといった伝統的な株価指標で見ると、歴史的な安値を更新している企業もあります。それと比べると、A社の株価は健闘しています。

そんなことを一緒にA社訪問したチームメンバーと話しながら会社に戻ります。後場が引けて気になるのは、ファンドのパフォーマンスと注目している企業の株価です。これを確認したら、今日訪問したA社の調査報告書を印象がホットなうちにまとめます。

こうした調査に基づいて立ててきた投資仮説が、企業価値の修正(株価上昇)というかたちで実現されることが、アナリストの仕事の最大の魅力です。

また、経営者から同じ話を聞いても、アナリストによって感じ取り方など、個々それぞれ違います。ですので、こうした調査を通じて自らの感性を磨き続けることもアナリストの大切な業務の一つだと考えています。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。

## 徹底的な調査活動

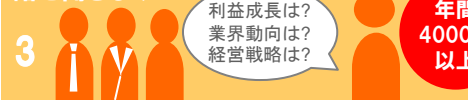
外からでは会社の実態はわかりません



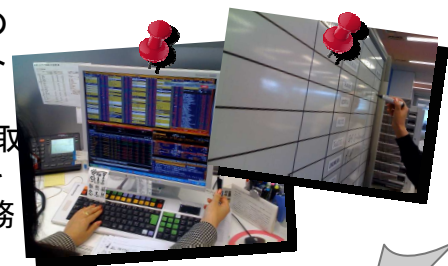
現場である会社を訪問して詳しく調べます



経営陣をはじめ現場の方々からも詳しい話を聞きます



年間  
4000回  
以上



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。